

平成 28 年度 第 4 回 稲城市海外姉妹都市検討市民会議 作業部会
議事録 【要点記録】

【開催日時】平成 28 年 10 月 13 日（木） 午後 7 時から 9 時

【会 場】地域振興プラザ 2 階 商工会中会議室

【出席者】■委員；出席者 7 人

- ・ 稲城市農業委員会（松本 一宏氏）
- ・ 稲城市体育協会（中家 敬士氏）
- ・ 稲城市教育委員会（城所 正彦氏）
- ・ 稲城市青少年育成地区委員会正副委員長会（石橋 良生氏）
- ・ 稲城国際交流の会（藤田 佑二氏）
- ・ 公募市民（原 忠男氏）
- ・ 公募市民（小山 良夫氏）

■行政

- ・ 事務局 4 人（企画部長（武藤 路弘）、企画政策課長（柴田 光洋）、
企画政策課計画調整担当係長（井田 聡）、企画政策課主事（新津 伸偉））

【開会】

部 会 長：皆さんこんばんは、お忙しい中、また夜分お疲れのところ、会議にご出席いただきありがとうございます。平成 28 年度第 4 回稲城市海外姉妹都市検討市民会議作業部会を行いましたのでよろしく願いいたします。それでは、本日の資料につきまして、事務局より配布資料の確認をお願いします。

井 田 係 長：それでは、配布資料の確認をさせていただきます。本日お手元に配布しておりますものは、8 点になります。

①次第

②資料 1：平成 28 年度 稲城市海外姉妹都市検討市民会議作業部会名簿

③資料 2：平成 28 年度第 3 回海外姉妹都市検討市民会議作業部会
（平成 28 年 9 月 29 日開催）

④資料 3：フォスターシティ市との交流事業例

⑤資料 4：ケアンズ市との交流事業例

⑥資料 5：スウォンジー市との交流事業例

⑦資料 6：海外姉妹都市交流を実施する組織について

⑧席次表

こちらは、傍聴されている方がいらした際も同じ資料をお配りします。過不足等はございませんでしょうか。

【次第 1】前回のまとめについて

部 会 長：次第1『前回のまとめ』について、事務局から説明をお願いします。

柴田課長：『前回のまとめ』についてご説明差し上げます。資料2をご覧ください。

〔資料2：『平成28年度第3回海外姉妹都市検討市民会議作業部会（平成28年9月29日開催）』に基づいて説明〕

部 会 長：説明が終わりました。何かご質問はございますでしょうか。

<質疑なし>

部 会 長：よろしいでしょうか。

<「はい」というご発言あり>

【議題1】交流事業について

部 会 長：それでは、議題1「交流事業について」、事務局より説明をお願いします。

井田係長：それでは議題1「交流事業について」について、私からご説明いたします。まず、資料3『フォスターシティ市との交流事業例』をご覧ください。

こちらは、昨年度から引き続いて市民会議でいただいていた交流事業に関するご意見や、この前のアンケート調査の回答であったり、フォスターシティ市自体が希望する交流などを整理し、また、フォスターシティ市であればできるであろうと考えられる交流について、一覧にまとめたもの、交流事業の案になります。

〔資料3：『フォスターシティ市との交流事業例』に基づいて説明〕

〔資料4：『スウォンジー市との交流事業例』に基づいて説明〕

〔資料5：『ケアンズ市との交流事業例』に基づいて説明〕

以上が、想定される交流事業の案になります。様々な交流の可能性が考えられますが、姉妹都市提携を結んだからといって、最初から数多くの交流事業を始めていく、というわけではないと考えています。

一過性の交流に終わらないように、無理のない形で、小さな交流を着実に積み上げる形で、継続的に交流が行われていくことが重要なことだと考えています。

部 会 長：説明が終わりました。交流事業については、このようなものが考えられるということですが、皆様いかがでしょうか。「この他にも、こんなことができる」というような案などもありましたら、非常に夢のある話ですので、どんどんアイデアをいただきたいと思います。

委 員：個々の交流を積み上げることも大事ですが、姉妹都市を結ぶ時に一番大きなイベントとしては調印式、サイニングセレモニーがあります。これが最初の大きなイベントであり、最大のセレモニーになるので、そういう時に、交流分野に関係する人たちに声をかけて、一緒にツアーを組んだらどうでしょうか。皆様、現地を知らないと思いますので、まず、そういう該当する組織や文化事業、スポーツ関係の人も、実際に現地に行ってみることで、「これは全然自分には関係ない」とか、「これは結構交流ができるのではないか」などと、肌で感じてもらえば良いのです。候補が3都市に絞り込まれてきましたが、決まった段階

で調印式、サイニングセレモニーに、100人や200人規模の大型のツアーを組んで、こういう該当する人たちに声をかけて、現地に行くということをお勧めします。

今は、行ったこともない、見たこともないところについて、「このような交流事業があるのではないか」と議論していますが、会議にかければ綺麗な資料としてまとまりますが、実際に交流ができるのかというと、非常に難しいと思います。

私の提案である調印式の大型ツアーは、どこもやっておらず、稲城市が初だと思いますので、是非、幅広く声をかけて、100人や200人単位のツアーを是非やったら良いと思います。

部 会 長：予算的なものもあるでしょうし、どのくらい募っていけるかは未知数なのですが、ある程度、各分野で代表して行かれるということも可能ではないかとは思っています。

委 員：今の委員のご提案はとても面白いと思います。これを皆が自主的に参加して行きましょとなると素晴らしいです。ただ、補助金が欲しいというような話になると、色々難しい問題が出てくると思います。やはり姉妹都市交流というのは、自発的に行われるべきものだという気持ちがあるものですから。

この表を見ますと、綺麗にまとまっています。この中で、稲城市側のニーズやポテンシャルというのが本当にあるのかという確認をしないと、案としては出したけれど、実際はできないというのが随分あるのではないかと思います。これを逆に言うと、ここに書かれたものは、とても全部は実現しないだろうと一見して分かるということです。特に教育交流とスポーツ交流については相手側からやりたいという話があったということで理解できます。一方、これを稲城市側で誰が受けるのかというのを具体的に出さないと、やりたいけれど受け手がなくて、実現しないという話になってしまいます。教育交流、スポーツ交流はきっと実現性は高いとは思いますが、その他に、商工会とか、農業者とか、企業とかの交流案が出てきますが、市民会議にはそういう団体から代表して委員の方がいらっしゃるんで、本当にこういう交流が可能なのかというのをやはり確認した上で、もう一度、実現性の高いリストを作る必要があるのではないかと思います。

それから、同じような視点で、相手側は教育交流とスポーツ交流について具体的に希望しているので、話の種になると思うのですが、それ以外の所は、例えば文化交流をやるとしても、先方の文化はどういうものがあるのかということがあります。聞くところによると、新しいニュータウンということですので、いわゆる伝統文化というのはあまり期待できないかもしれない。しかし、ニュータウンに住んでいる方々が音楽や色々な芸術的なことなどに興味を持っていれば、ポテンシャルとなりますが、やはり交流相手の方についても、これからもう一歩二歩、現実的な線を出していかないと、ちょっと交流の種にはならないのかと感じます。

柴 田 課 長：こちらのリストは、総花的な、可能性として考えられるものを分かる範囲で列挙したリストになります。確かに、たくさん項目が載っていますが、これが全て実現されるというものではありません。フォスターシティ市の交流事業例である資料3につきましては、実際のやりとりが以前にあり、その時の意見交換で、こういう事をしてみたいというのがフォスターシティ市側からあり、教育交流や少年野球などのスポーツ交流があるわけです。

スウォンジー市については、イギリスですので、野球があまり盛んではなく、サッカー

であろうというイメージという部分での交流事業案です。可能性も踏まえた上で、じゃあ、この都市だったらどういうことができるのかという入口の取っ掛かりの部分というのが、あればいいと思います。

また、実際に市民会議の中で、現地視察に行ってください話もあります。その際に、先方と、交流の可能性であったり、取っ掛かりとして実施してみたいという交流についても、色々と情報交換ができるものと思います。稲城にはこういうものがあって、向こうにはこういうものがあって、じゃあ、どういう交流がお互い希望する形でマッチングするのかというのが、現地視察の中でもう一步深まっていくと事務局では考えています。

部 会 長：最初から多くの交流事業を始めようというのでは、なかなか上手くいかないと思いますので、主たる交流事業というのを決めたらどうかと思いますが、昨年度からの市民会議での意見や、アンケート調査の結果では、「青少年の健全育成」で、「教育交流」、「文化交流」、「スポーツ交流」が良いという意見が多くありました。フォスターシティ市の場合は、特に教育交流やスポーツ交流を望んでいるようなので、その辺からやったらどうかと思います。あまりあっちこっちと交流事業を広げても上手くいくか分かりませんので、少しずつ、長い目で、交流を深めて行くと良いと思いますが、いかがでしょうか。

委 員：この会議で終始一貫言っているのですが、やはり交流事業のきっかけというのは、キーパーソンがいたり、何かのきっかけがあるというのが大事なことだと思います。今、細かい交流というよりは、キーパーソン、きっかけ、過去の交流実績があるかないかを今一度精査しないと先には進めないと思うのですが、いかがでしょうか。

部 会 長：どこに決めるという中では、キーパーソンがいるのはフォスターシティ市だけです。

委 員：必ずしもそうではありません。きっかけはいずれの都市も持っているのですが、それが具体的な交流に繋がるかどうかは、まだやり取りが始まっていないので見えないというだけです。

その関連で、スウォンジー市とケアンズ市の交流事業案も用意いただいたのですが、本当にこういう交流ができるのかと、これを見てびっくりしてしまいました。もし、スウォンジー市に視察に行くとして、このリストを持って行った場合、「稲城はこんなにたくさんやろうと考えているのか」ということで、向こうは困惑してしまうし、誤解が生じると思います。

オーストラリアのケアンズ市については、現地の姉妹都市のキーパーソンとなる方が見つかって、その方と実際にやり取りを行っている段階なのですが、少し情報が入ってきたのでご報告します。ケアンズ市は、栃木県小山市と徳島県美波町の2つと姉妹都市関係を持っているのですが、その2つがどのくらいの交流をしているのかというと、そこまでやってはいないのです。小山市は、ケアンズ市から短期のホームステイの学生が毎年1人ずつ、長くても4週間くらい来て戻ります。このお金については、日豪協会というNGOがあって、そこからお金をもらい、ケアンズ市はそれを使って実施しているということです。逆に小山市の方からは、向こうの高等学校とツインプログラムを作っていて、小山市の生徒が毎年20人か30人くらいのグループで向こうへ行き、これも数週間で帰ってきます。やっている交流はこれだけです。この他、小山市は隔年で市長と各種団体の色々な人たちが混ざって訪問していますが、だいたいこれが定期的にやられている事です。それ以上には実際

やっけていなくて、毎年、何十人も行っていると聞くと、随分熱心に交流しているように感じますが、実際にはそこまですごい交流ではありません。もし、稲城とケアンズ市が姉妹都市を結んだら、ケアンズ市としては、稲城市にもショートステイを1人送ろうかという感じで考えるだろうし、稲城市も学校が関心があれば、向こうの学校のどこかと関係を持って、1年に1回くらい20人か30人くらいの生徒が行くようになれば、ストーリーとしてはあり得るのかと思いますので、そんなにすごい話ではないなと感じます。

それから、スウォンジー市については、まだ、コンタクトが取れるキーパーソンが見つかっていません。そのため、どことコンタクトを取ったら良いかを教えてください、一昨日、事務局の井田係長と一緒にクレア（自治体国際化協会）に行ってきました。クレアにはロンドン事務所があるので、そこに情報をあげて、稲城はこういう事を考えているから、どことコンタクトをしたら良いか教えてくださいとお願いした段階です。そういう訳で、向こうが、どこの国とどういふ交流をやっているかという情報は、今のところ手に入っていません。なお、先ほどイギリスでは野球がないという話がありましたが、確かに野球はないのです。その代わり、クリケットを国技でやっけていて、逆に日本がクリケットをほとんど公式な物はやっけていないということです。世界的にはクリケットの方が広くやっけていて、野球は数か国です。クリケットは旧英連邦はほとんど全部やっけていますので。

柴田課長：中学生が20人から30人くらいのグループで向こうに行くという交流ですが、回数の頻度としてはそれ程多くないのかもしれませんが、市の行政から見ますと、20人から30人の規模で中学生を外国に送り出すというのは一大事業で、並大抵ではない、ものすごくハードルが高い事業だと感じています。

また、クレアに委員と係長で訪問した件について、訪問の際にクレアから言われた情報として、イギリスは最近の風潮として、新規で海外姉妹都市を結ぶということには消極的な状況になっているということでした。また、別の所から伺った話ですと、以前は、同じ国の中で、複数の都市と姉妹都市を結ぶこともあったようですが、最近は、同じ国の中では1都市というような部分があるようです。

武藤部長：既に複数の都市と姉妹都市提携をやっけている所はあるでしょうけど、今後、さらに増やしていこう、例えば、日本の市と既にやっけていけば、さらにもう1都市やっけていこうという風潮は、段々なくなっているというお話は伺っています。

部会長：スウォンジー市については、既に日本との姉妹都市関係はあるのでしょうか。

武藤部長：ケアンズ市は既に日本の2都市と姉妹都市を結んでいます。スウォンジー市は日本とはどこもやっけておらず、海外の都市と結んでいるだけです。

柴田課長：実際にクレアに投げかけられる部分は進めておりますので、向こうの返事次第、早い遅いもありますが、追加で分かってきたことについても書き加えた形で、市民会議へはこの3都市を戻していくことを考えています。

委員：私のイメージでは、調印式で実際に契約を取り交わすときに、将来、どういふ形の交流をやっけていこうかと、そういう話になると思います。そのときにポイントになるのは、稲城としては、何を向こうに求め、向こうからは、どういふことを稲城市に求めているのか、そこをはっきりしておかないとダメだと思います。今、フォスターシティ市からは教育交流とスポーツ交流の希望が挙がっけてきています。その内容について、スポーツ関係は、面

白いと思いますが、逆に、学校の交流については、かなり色々なところがやっている中では、特に目立ったポイントになるところはないと思っています。また、その他の交流、例えば、商業だとか農業の交流については、フォスターシティ市の性格上、計画都市であり、非常に高級な住宅地ということから考えても、そういう交流は厳しいと思っています。「稲城はこういったことはできますよ」と提案して、向こうが選ぶものは案外少ないのではないかと思います。

ではそういう交流をどうするかということになりますが、フォスターシティ市以外で、その辺をフォローするような交流ができる何処か別のところとも交流が出来ればいいと思っています。

とにかく、稲城市として何を一番向こうとやりたいのか、向こうは何を稲城に求めているのか、それをもう少し明確にしていけないといけないと思います。

部会長：フォスターシティ市については、向こうから青少年のカードの交換ですとか、ホームステイ、野球交流、サッカー交流、そのような希望があるので、それが主の交流になっていくのかと思います。その中で、稲城としてはこういう交流を、まずやってみたいということ絞っていけば良いのかとは思っています。

委員：部会長が言われた通りだと思います。こんなに交流事業をたくさん持って行っても、受け付けてくれません。逆にこれでは面倒くさく感じられてしまうと思います。既に交流をやっている市町村を見ても、子ども中心の教育交流などがメインであると思います。その辺をまず始め、段階を踏んで徐々に広げて行けば良いと思います。

できれば、まず交流先を決めてしまった方が良いのではないのでしょうか。今、3都市が候補地として挙がっている中で、確実性が高いのはフォスターシティ市だと思っています。例えば、時差の問題にしても、日本の学生が通っている時間内にスカイプができるという部分もあります。ケアンズ市については、他の日本の都市と交流をやっている中では、少し難しいということと、スウォンジー市については、少し遠いと思います。

フォスターシティ市は実際に手を挙げているのですから、ここに絞った形で話を進めた方が良いと思います。そうしないと、何回会議をやっても同じことの繰り返しになってしまいます。

部会長：どこの都市と交流するにしても、主たる交流を決めなければいけないのではないかと思います。青少年交流をまず取っ掛かりにやっていき、徐々に広げて行くという形でいかがでしょうか。

委員：都市を決めないと、交流する内容も決まらないと思います。まずどこにするのかを決めて、それから各論に入らないといけません。

部会長：第1回目の作業部会で、フォスターシティ市は候補に挙がりました。その後、他の都市もあるのではないかとということで、前回20の都市を絞り込んで、結果としてこの3つの都市になってきました。現実的なところまできているのはフォスターシティ市だけで、残りの2都市は、これからキーパーソンから情報を入手していき、少しずつ進めているところだと思います。このような中で、委員から、まずフォスターシティ市を決めて欲しいというご意見がありましたが、皆様のご意見を伺えればと思います。

委員：前回の作業部会で3都市まで絞り込んできましたので、ここで1つに絞るのではなく、市

民会議の方にこの3都市のリストについて、現状で揃っている情報を出して、「ここまで出てきました」というふうに持って行くのだと思ってました。本日の作業部会では、交流事業のことをもう少し詰めたら良いのではないかと思います。

部 会 長：この作業部会では、主たる交流を何にしようかということを決め、市民会議の全体会へは、この3都市を戻していくわけですね。

柴 田 課 長：前回の作業部会では、20の都市から、フォスターシティ市と一緒に市民会議へ戻して議論の俎上に載せるべき都市があるのかないのかということで判定をしていただき、ケアンズ市とスウォンジー市が残りました。委員が言われたように、3つの市については、まず市民会議に戻そうというのが前回の結論です。今回のテーマとしては、交流事業、例えば、「具体的にこれをやろう」という部分でもよろしいですし、「こういう分野はやっていこう」という広い括りでも良いですし、その他、「この都市についてはこういう事をやりたい」ということでも良いですし、この3つの都市との交流事業について、なんらかの形で市民会議へ戻せる形の結論を出していただければと思います。

武 藤 部 長：昨年、国内の友好都市として、相馬市と野沢温泉村について友好都市提携検討市民会議でご議論をいただいたときにも、かなり広い交流のメニューを出した上で、まずできるところからやっていったら良いでしょうという提言をいただいたので、今回も同様に、交流の可能性を数多く挙げてみたという経緯があります。あまりにも非現実的だろうというようなものがあれば、少しトーンを落としても良いと思いますが、あくまでもメニューの可能性を出していきまして、今後、視察に行ったときに、この中でチョイスできるものについて明確にしていきたいと考えたところであります。

委 員：今、青少年の健全育成、教育交流ということがかなり重点になるのではないかという話が出ていますが、委員が教育分野の専門をされていますので、実際にそういう形で、教育や若者の交流に焦点を当てて、どのくらいのことが稲城市としてできそうなのか、その辺りを少し伺いたいと思います。

委 員：教育委員会の中で話し合っているのは、特定の子どもだけを選別して交流をするのではなく、なるべく多くの児童・生徒にそういった機会を与えられることが一番良いのではないかということで、やはりインターネットやスカイプを使った交流からまず入って行って、行き来できるような「環境作り」からスタートするのが良いかと考えています。一気に、ホームステイ、留学という話にはなり難いと考え、異文化交流という部分からスタートして行って、遠いアメリカが近くに感じられるようになる環境作りが必要だと思います。

委 員：実際に、生徒を何人か送ったりというのは、いきなりは難しく、少し時間をかけてからという部分なのでしょうね。

委 員：大空町とも交流をしていますが、結局、それも選抜であります。なかなか環境的には難しいところもありますが、なるべく多くの児童が参加できる交流の場を作ることが、事業としては大事な所なのかなと思っています。

部 会 長：長い年月を経ながら少しずつ成熟させていくというようなことになると思うので、まず手始めに、青少年の交流を主に行った方が良いのかとは思っています。

委 員：今仰った青少年の交流のような特定の事業というのは、個々にやれば良いのです。この会議でわざわざ何回もやることではないと思います。国際姉妹都市というのは、行政同士が

結んで、そこに橋を架けることなのです。橋を架ければ、学生も、商業も農業も、色々な分野の人達が行き来するようになります。これが、海外姉妹都市の完成図だと思っています。個々の積み重ねということでやっても、完成図が私には見えません。教育交流はやったら良いと思いますが、それはワン・オブ・ゼムであって、我々は大きいところを橋で繋ぐということをするれば良いのです。あまり交流事業を狭めてしまうと、「姉妹都市は、青少年関係だけの話か」と疎外感を感じる方も出てきてしまうかもしれません。そうではなく、「皆さん、行きましょう」という考えが大切であり、特定のものに制限せず、最初に市長と一緒に大規模なサイニングセレモニーのツアーを組めば良いのです。市長だって、100人も一緒に行ったら顔も立つし、楽しいでしょう。現地で盆踊りしても良いでしょう。コーラスやっても良いじゃないですか。盛り上げて行って、できるところからどんどんやっていったら良いのです。海外姉妹都市については、スタートはそういうものだと思います。

柴田課長：市民会議から作業部会に任された内容としては、「都市」という部分と、「交流」という部分がありますので、「交流」についても、何らかの方向性を示すことが必要であると考えます。部会長が仰っていたように、27年度4回の議論の中で、青少年の健全育成ですとか、教育交流、スポーツ交流というのは意見としてかなり挙がっていたところです。

委員が仰っていた、橋を架けるという部分ですが、議題3で交流を担う組織についての話も出てきますが、姉妹都市を結んだら何らかの窓口ができます。橋の日本側の入り口となって、そこに相談してみると、向こうに繋がるということになりますので、仮に、青少年の健全育成をまずやってみようという結論が出た場合でも、他の交流事業を排除するものではなく、そういった海外姉妹都市の窓口を話を持っていけば、向こうに繋がっていきえるようになると思います。

武藤部長：両方にチャンネルが開くという考え方です。情報のやりとりも、今は領事館を通すやり方になっていますが、これからは直接のやり取りができるようになりますので、新たな事業も、向こうに投げかけ、応えが帰って来るというキャッチボールが簡単にできるようになると考えています。

委員：ツアーのご提案は、とても分かりやすく、華々しく思いながら、しかし、実際の姉妹都市交流というのは、そうは進んでいないなと考えるところです。色々な姉妹都市を結んでいる都市が、どのくらい頻繁にやり取りしているのかということ、そこまで頻繁ではないのです。基本は市民が、以前より関係を持って交流をしていたとか、これをきっかけにして交流を始めようとか、自主的な盛り上がりがないと交流は生まれません。行政でいくら旗を振っても、市民が躍らなければ、その関係というのは次第に萎えてしまいます。

長く続く関係を考えると、限定された分野になる可能性も高いと思います。あまり華々しくやるのではなく、まず限られた分野でパイプができるということから始めるのが良いと思います。

私は、小山市とケアンズ市の交流のケースをかなり参考にしているのですが、小山市は、平成14年度に最初に市長が向こうから来たミッションにコンタクトしたことから始まり、翌年、小学校の校長先生がスモールグループを連れて向うに行き、そしたらとても良かったので、また翌年もやったという関係で、今でも15～16年続いて、途切れずに来ている

という関係です。なので、花火を上げて、「さあ、皆でやりましょう」という感じではなく、ときどき向こうの市長や関係する方々が来て、ウェルカムそして、そういう機会を利用しながらやって行くという、もう少し地味な考えの方が、地に足が着いて良いのではないかと思います。

先ほど、教育の方では、いきなり人を送るには抵抗があるということでしたが、それもとても良く分かるので、教育でなくても、スポーツ分野から交流を始めても良いと思います。実績があつたり、やりたいと思うグループがいないと、こういうのはスタートできないと思います。

ですから、そういう交流をしたいと思う団体などを、やはり探さなければいけないのではないのでしょうか。本格的な調査をやる必要はないかもしれませんが、皆さん、組織を代表して委員になっておられますので、各団体の中で、今まで海外とのやりとりをやったところがあるかどうか、それから、やりたいと思っている所があるかどうかを少し調べて、それを基にした稲城市がやりたい交流リスト、可能性がある交流リストを、もう一度作る必要があるのではないかと思います。

部会長：作業部会の結論として、候補地の3都市と、主たる交流についてを市民会議へ持っていきたいと思いますが、交流事業については、青少年の健全育成の交流とスポーツ交流も含めた中で持って行ってよろしいでしょうか。

武藤部長：市民会議の中には、文化芸術の団体もいらっしゃるの、市民会議の中で、もう一度ご議論いただいてもいいのかという感じもします。

部会長：ここで特定しないで良いということでしょうか。

武藤部長：やはり、市民会議の委員の皆様は、色々な団体から出てきていらっしゃるの、是非そこで、その可能性というのをもう一度叩いていただければと思います。

委員：そのためにも、各都市について、我々ももっとスタディすべきだと思います。例えば、フォスターシティ市を改めて見ますと、結構規模が小さい、人口は3万人くらいで、ほとんど全てニュータウンということです。ケアンズ市はまた違う性格の市ですし、スウォンジー市についてはもっとずっと歴史のある都市で、日本企業もたくさん進出しているということもあり、それぞれが違う性格を持っています。もし稲城が交流するとなれば、その性格に合わせた事業を持って行くべきであります。今の段階だと、スウォンジー市、ケアンズ市、フォスターシティ市について、イメージだけで話しているの、各都市についても、もう少しスタディをしないといけないと思います。

部会長：先々のことについては、実際にどこかの都市と姉妹都市を結んだ時には、交流事業をする組織を立ち上げるということですので、その中で検討していくような形も良いのではないかと思います。この作業部会としては、この3都市を市民会議へ挙げていきたいと思うのですが、これから、また色々な都市を再度やるとなると時間的に困難となります。

委員：そうではなく、この3都市を詳しく調べるということです。

柴田課長：前回の作業部会で、これから市民会議に戻していくまでの間に、この3都市について入ってきた情報、調べた情報、確認できた内容は加筆をしていくということは、お話をさせていただいていたところです。

武藤部長：議論ができるような情報がないといけないので、これから短い期間ですけど、情報を加筆

させていただきたいと思います。

委員：その関係なのですが、今、技術的な問題が生じています。ケアンズ市に確認をしてるやり取りの中で出てきた話では、向こうが稲城市との姉妹都市提携の可能性・意思について考えを述べるには、稲城市から、できれば市長か、または相当するような方から、向こうの市長に対して、正式なコンタクトがないと難しいという事です。当然と言えば当然で、フォスターシティ市も市長が行かれたから向こうも必死に考えて返事をしました。しかし、ケアンズ市にそれをやると、今の時点では、色々な市に市長がラブレターを送ってしまうことになるので技術的に難しいです。しかし、向こうからのリアクションも含めて、積極的な色々な情報を得るためには、そういう様な働きかけをしないと、難しいということです。

今、ウェールズの方も、向こうの信頼できる相手先をクリアに聞いているのですが、もし、向こうから来たときには、何らかのやり取りをしなければいけないわけです。どういふスタンスでやったら良いかを事務局からもコメントいただいたらどうでしょうか。「情報は下さい、でもどうするか分かりません」というのは、お見合いと同じで難しいと思います。

柴田課長：実際に、フォスターシティ市については、市長と随員の職員とが現地に行き、意見交換をしたから、具体的になっているというのはあります。これは市民会議で議論を始める前にあった状況ではありますので、これは前提としてこういう事があったというのはあります。

市長の名前でコンタクトをとった話がありましたが、フォスターシティ市とのやり取りがある中では、難しい部分があると思います。とはいえ、スウォンジー市については、イギリス大使館に委員がコンタクトをとって、少し難しいという回答をいただいた話があって、それで先日、クリアに行きました。そういった、できることはやって行き、それで集まってきた情報を市民会議へ出して皆さんに話し合ってもらおうということです。

委員：この事業は、今年度ではじめをつける訳ですか、つけない訳ですか。

武藤部長：つけます。

委員：そうすると、今度の市民会議の時には、この3都市については、本当に稲城市と提携をしても良いという気持ちがあるのかないかぐらいは、出しておいてもらわないと、残された期間の中で決めて行くのは難しいのではないですか。これでは、いつまでも先へは進みません。

柴田課長：前回、委員からフィリピンの都市を推薦いただき、実際に外務省に確認を取って見たところ、今のフォスターシティ市に市長が行っていて、検討する都市リストに他の複数の都市がある中では、先方に「どうですか」と意思を確認するという事は大変失礼にあたるから止めて欲しいということで、外務省からストップを掛けられたということがあります。ただ、市民会議に戻していく中で、確認できるところまでは、確認して戻して行こうということで、イギリス大使館であったり、クリアへの確認であったりという話になります。稲城市との交流を希望する、しないの意向について、そのときに載せられるかどうかは、難しい部分がありますが、ただ、スウォンジー市については、現状こういう状態ですが、確認させてくださいということは投げかけていますので、返事が市民会議に間に合えば、きちんと資料の中に載せていきます。

武藤部長：市対市というのはイコール、国対国ということになり、色々な所に二股、三股をかけること自体が、かなり難しいところです。現状で、市長から市長に対しての手紙を出すのは非常に難しい状況です。

委員：本当に良く分からなくなってしまうのですが、この作業部会を最初に立ち上げた目的は、現実的な話を俎上に載せるためですよね。しかし、未だに現実的な話ができいていません。私が終始一貫して話をしているのは、キーパーソンがいるのか、過去の交流実績、きっかけがあるのか、そこから探していくという話ではなかったのでしょうか。それを事務局が優柔不断な行動をするから、おかしくなるのです。もっと毅然とした態度で会を進めて行かないと、本当に進まないです。実際、3都市出たというって、本会議で、俎上に載せるのはフォスターシティ市しかないではないですか。今日の話の中でも、もう少し事務局はしっかりしてください。このようなことでは、やってる意味がありません。我々は、税金を使って日当を払ってもらっているのです。皆さんだって、管理職を除いて、もしかしたら残業手当が出ているかもしれないですが、おかしな話ですよ。これ以上、熱く語りたくないです。すいません。

部会長：今までの話の中で、交流事業の主たるところを決めたいというお話もしたのですが、なかなかそれも出てこないの、今度の市民会議の時までに、今出たご意見を全て網羅した中で、事務局の方で整理していただけないでしょうか。

柴田課長：わかりました。

委員：どうお考えですか。ここまで右往左往、優柔不断な会議の進め方で。

委員：意思表示が不明確なのです。よくそれで行政が成り立つと思います。完成図が全然描けていないから、意見を言う度にちょこちょこ、出た意見に対してちょこちょこで、何も進んでいないわけです。このような内容で市民会議へ持って行っても、結果は同じです。決断しようがないのですから。挙げて無駄ですよ。私本当、今日は帰ろうかと思いました。1人1人良いことを言っているのです。それは個人の意見だから言ったって良いじゃないですか。事務局はそれを一つの会議としてまとめて行かなければいけないのです。方向性が全然見えません。

委員：その発言は少し理解に苦しみます。全体の部会の意見として、今仰られた方向性が全く見えないというのは、本当でしょうか。この4回をやってきて、随分はつきりしてきたのではないのでしょうか。

委員：作業部会が立ち上がった最初の目的というのは、現実的な話をするための俎上に載せていきましょうという話です。

委員：現実的な話になってきていると思いませんか。姉妹都市を結ぶことが、そんなに、「やりましょう」、「ここが良いです」という感じで進むとお考えですか。

委員：いつも言っている通り、去年1年間の議論は、資料『平成27年度稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議「主な意見分類」』に集約されている訳です。私はいつもこれを基本に発言をしているつもりです。しかし、事務局が優柔不断に動いてしまうから、おかしな話になってしまっています。いわゆる候補地の条件というのは全てなわけですよ。なんで今更クレアに行かなければいけないのですか。

委員：クレアに行った理由は非常にはつきりしています。スウォンジー市の姉妹都市をハンドリ

ングしている部署が分からないので、どこがやっているのか、ひょっとしたら、市から独立した機関がやっている可能性もあるのです。色々調べました。そして、この道の専門であるクレアに行って、そこを調べてくださいということで一昨日行ったのです。

委員：現実的な話なのでしょうか。次の本会議までに持っていける話なのでしょうか。

委員：それまでに返答があって、交渉が始まるすぐ前までに来ているのは実はケアンズ市なのです。

委員：今の段階で稲城市がプロポーズをするのは、方法論としてはないのです。そうですね。

武藤部長：はい。

委員：それは市長から市長へ手紙を書くテクニカルな部分がないという訳ですよね。

武藤部長：その状況を含め、正確に市民会議の皆様にお知らせをすることで、ご判断をいただきたいと考えています。

委員：わかりました。では、よろしくお願いします。

委員：今の3案で、市民会議は判断できるのでしょうか。

武藤部長：「こういう状況にあります」という、今の正確な状況をお話して、ご判断いただきます。

委員：報告するのはかまわないと思うのですが、それで審議できるのですか。ここと同じようになってしまうのではないのでしょうか。

武藤部長：市民会議の中で、こういった結論を導いていただくかということは、その中で十分ご議論をいただきたいと思います。

委員：他の委員の皆さんは、今までの会議に出ていないのですから、我々より内容を知らないわけです。いきなりどんと出されるわけでしょ。だから、丁寧に資料を出して、「我々ではこの3案に決まりました、この3案の中でどれがいいのでしょうか」ということなら分かりますが、それが、同一条件になっていない状況、不確定要素がたくさんある状況で、同じ紙としてバツと出すのは、市民会議の人達も困ると思います。私が責任者だったら、そんな無責任なものを出しません。ある程度詰まってから出します。

部会長：事務局どうですか。

柴田課長：先ほど、委員からありましたとおり、市の今の状況で、ラブレターを書くことはできません。市としてはラブレターを1通受け取っています。これがスタート時点の状況です。委員が仰っていました27年度4回の議論をまとめた資料については、この作業部会の中で何度もお配りし、ご説明もし、本日の資料の中でも載せています、こちらは、去年4回の議論の中で、繰り返し、皆様からいただいたご意見の集約ですので、非常に重たいものだと何度もご説明させていただいたところです。

フォスターシティ市については、第1回目の作業部会で確定候補地という扱いになりました。その後、色々な可能性をとという部分で、議論が広がっていき、最終的に前回、20の都市を選別をしていただいて、スウォンジー市とケアンズ市がフォスターシティ市と一緒に戻そうということで、残ったわけです。なので、この3都市はセットにして市民会議へ報告をするというつもりでいますが、仰る通り、状況が違いますので、同じ条件にはなりません。ただ、作業部会で話し合っていた中身として、この3都市についてその状況を、現状で分かる限りの情報を載せて、市民会議へ戻し、最終的な結論を出していただければと思います。

武藤部長：残りの色々な市がフォスターシティ市と並び得るかということを検討いただいたのが2回目以降の作業部会だったわけですが、結局、こちらからラブレターを出さないと向こうも結論が出せず、技術的に難しいという状態になったことから、この2都市についてはそこはストップせざる得ないと思います。それが別な手段、もっと市民レベルでの交流で積み重ねて行くことができるのであれば、それはそれで良いのかと思うのですが、そういったことをしっかりとお話をさせていただいて、結論を導いていただきたいと考えています。

部会長：第1回目の作業部会のときに、「交流事業及び候補地について意見交換を行い、フォスターシティ市を候補地として検討を進めるとともに、他に候補地にできるものがあれば並行して議論して行く」ということが決まり、その次に、他の候補地として20都市の中で、絞り込んで3都市となったわけです。この3都市については、姉妹都市になる意思があるのか、ないのかをきちんと発表できれば、市民会議で検討もできますが、フォスターシティ市以外の都市については、相手側の気持ちがあるかどうか確認できていないので、市民会議でも混乱するだけだと思います。

作業部会の中で色々な議論が出てきたのですが、他の市については、フォスターシティ市と同等なところまで具体化できているかということ、できていないわけなので、第1回目のときの結論の通り、「色々この作業部会で検討したけれども、これだけの候補地もあったのだけれど、まだ他の2都市については、姉妹都市というところまでいっていないのだ」という、そういうような形の中で話を進めて行かないと、市民会議自体が作業部会と同じような形で、決まらないと思います。自分の立場からすると、こういう候補地も挙がったけれども、同じレベルで検討できるまではいかなかったもので、とりあえず、フォスターシティ市を候補地として、交流事業は向こうの希望しているものをしていきたいという形で持っていった方が良いでしょう。また、将来的に、その他の都市とも交流をしたければ、後に交流協会のようなものも作るわけですから、そういう中で検討していただくという形にしないと、皆さん仰るように、市民会議に持っていても結論が出ないと思います。

委員：仰ることよく分かります。個人的に思うのは、フォスターシティ市ありきで、最初から、ある意味では決まっていた訳です。フォスターシティ市については、当面、青少年の交流や、スポーツ交流以外の所ではなかなか交流は難しいのではないかと考えています。どういう交流をしていくかということで、昨年度に文化交流や経済交流など、色々な意見が出てきた事を考え、必ずしも、相手を1都市だけに決めることはなく、いくつかの都市とやっても良いのではないかと思いました。ただ、時間的な問題とか色々な事があって、今回は、フォスターシティ市とだけ姉妹都市関係を提携するというのは、それは構わないと思います。今後、どういう組織ができるのか分かりませんが、その組織で、将来的に追加でやっていく可能性についても含めて審議をしたという形で持って行って良いのではないかと思います。なぜ、そういう風に言うかと言いますと、実際に、姉妹都市というのは、相手が1市だけというわけではなく、多くの都市と複合的に色々な形の提携をやっているのが主流になっています。そういう形で、将来的にいくつかの都市と稲城市が提携をするというような形で、結び付けて行くということも可能だと思っています。

部会長：作業部会では色々検討した結果、フォスターシティ市についてを具体的に提出して、なお

かつ、他の都市についても、今後できる組織などを通して当ってみたいという結論で持っていったらどうでしょうか。

委員：あえて、やはり最後に一言述べたいのですが、今までのプロセスも踏まえて、最初の時点から市長がコミットしているのはフォスターシティ市だったわけで、これに対抗するところは、技術的に出ないというはある意味で分かっていたわけです。と言いますのは、テクニカルな面として、市長が働きかけができないわけですから。要するに、フォスターシティ市が残るとというのが前提としてあったという風に考えても、おかしくないのではないかとこの進め方になっていると思います。

実は、フォスターシティ市について良く調べると、欠陥が色々出てきます。スケール的な問題から始まり、新しい都市であるとか、人種の構成など、そういう問題については、フォスターシティ市を議論していないから、全然話をしていないのです。他に良さそうな所があるかどうかということをやってきましたが、行きつくところは、「ほら、市長が話せないから向こうの確認もできないでしょ」というテクニカルな問題で、フォスターシティ市しかダメという話になるかもしれないですね。これ非常にやり方として問題があったので、フォスターシティ市が本当に良いのかどうかの議論を、どこかでしないといけないと思います。

今回は、たまたま向こうから紹介があつて、他の可能性をほとんど考えずに市長が行ってしまい、向こうも乗り気だということですが、本当に釣り合うのかどうかは分からないと思います。そんなに規模の大きいところではありません。稲城の方がずっと大きくて、自然も豊かです。私は、候補地を出すということで、市民の調査もやりながら、いくつか提案し、最終的にケアンズ市、スウォンジー市の2つとなりましたが、個人的には、この2つの方がフォスターシティ市よりは色々な面で優れていると思っています。しかし、市長が最初に手を付けたからフォスターシティ市に決まるというのは、やはり市民の1人として、釈然としないとところが、大変あります。まあ、そういうことを述べさせていただいた上で、あとどういう風にまとめていくかは、事務局にお任せしたいと思います。

部会長：いつまでも作業部会をしている訳にはいかないなので、事務局で今日までの議論について取りまとめをしていただいて、最終的に市民会議に持っていきたいと思うのですが、まとめをやっていただけますでしょうか。

武藤部長：今、ご意見をいただいた中で、やはりフォスターシティ市が筆頭であるという考え方いたします。したがって、他の2つの都市については次点候補にはなり得るけれど、まだキーパーソンであるとか、フォスターシティ市に並ぶほどの条件は整っていないという現実がありますので、そこを付記して、部会としては、1+2という形での結論は出しますが、2都市の方は、フォスターシティ市に比べれば条件は整っていないことをはっきりと示し、今後の組織される協会の中で交流事業の1つとして進めて行くことは可能であるということも付けて報告したいと考えています。

部会長：交流事業については、具体的に何をということは持っていかないということで良いのでしょうか。

武藤部長：具体的な交流事業については、フォスターシティ市のお話をさせていただきたいと考えています。

部 会 長：今の部長の話したような結論で市民会議へ持って行ってよろしいでしょうか。そういう様な形で、事務局の方でよろしくをお願いします。

武藤部長：わかりました。

【議題2】海外姉妹都市交流を実施する組織について

部 会 長：それでは、議題2『海外姉妹都市交流を実施する組織について』事務局より説明をお願いします。

柴田課長：それでは、資料6「海外姉妹都市交流を実施する組織について」をご覧ください。

〔資料6：「海外姉妹都市交流を実施する組織について」に基づいて説明〕

部 会 長：実際に姉妹都市を提携した場合にはこのような交流協会を立ち上げて、民間の中でやっていくということですね。

武藤部長：そうです。民間レベルの団体を最終的に立ち上げるという形です。例えば、体育協会や災害防止協会などのように、民間レベルの団体であります。大きく行政がその中にマンパワーを入れているところもありまして、そういう形で将来的には独り立ちしていくような団体にしていきたいと考えています。これは段階を踏んで行かざるを得ないと考えているところです。

部 会 長：一気にできないでしょうから、指導しながらそういう交流協会を作っていく、その中で、海外交流や国内交流についてもやっていく、そういう組織としたいということですね。

委 員：そうすると、稲城市と向こうの都市とで調印するのではないということでしょうか。

武藤部長：調印は市と市がします。こちらは、実際の交流事業を引っ張っていく、今後の事業を進める運営母体となる組織の話です。

部 会 長：海外姉妹都市提携をした暁には、こういう組織作りをしなければいけないということですので、これについては、皆さんご意見はないと思いますが、いかがでしょうか。

委 員：既存の組織を使うのではなく、全く新しい組織を作るわけでしょうか。

武藤部長：そうです。ただし、今も市内に色々な団体がたくさんいらっしゃいますから、その中からお手伝いいただける場所は、お手伝いしていただきたいとは思っています。

部 会 長：いずれにしても、軌道に乗るまでは、行政も手伝っていくわけです。

武藤部長：英語など、向こうの言葉をかなり流暢に話せる方でないと、なかなかコミュニケーションが難しいので、市の職員ではなかなかいないところについては、そういったことに長けた市民の方を採用するなり、来ていただいたりして、やっていただければと考えています。

部 会 長：交流協会を役所の中にするわけではなくても、すぐに1人立ちには不可能だと思いますので、その辺は行政の方でも、地域振興プラザでも市役所の一角でも、場所を作っていただきながら進めるのが良いのではないのでしょうか。ICSは市役所の中にあるのですか。

柴田課長：最初は市役所の経済課の中でしたが、今は振興プラザの中にあります。

武藤部長：ICSは中小企業勤労者福祉サービスセンターで、中小企業の福利厚生部分を担ってまして、今は独立して事務局が別にあります。交流協会もそのように発展的に持って行きたいと考えています。

部 会 長：これに関しては別に意見は無いと思うのですが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

【議題3】市民会議への報告について

部 会 長：それでは、議題の3『市民会議への報告について』、事務局より説明をお願いします。

柴 田 課 長：作業部会4回を開催させていただきまして、候補地、交流事業、そして組織などについて集中的にご審議いただき、ありがとうございました。作業部会の検討経過、検討結果につきましては、事務局でまとめさせていただき、全体会に戻していく形になります。

市民会議の全体会では、作業部会の報告を基に、議論をしていただき、市民会議としての候補地の決定、交流事業の決定をしていただき、提言としてまとめていただく流れになります。

作業部会の報告書につきましては、毎回「前回のまとめ」ということで会議の冒頭でご報告させていただいていますが、こちらの「前回のまとめ」をベースに、事務局で素案を作成し、そちらを部会長にご確認いただいた上で、取りまとめていきたいと考えていますので、最終的な確認というのは部会長にご一任いただければと思います。

また、皆様には、市民会議を開催する前に、取りまとまりました報告書を事前にお見せしたいと考えています。

部 会 長：今日までの議論のまとめを市民会議に持って行きたいという事で、説明がありました。また、取りまとめを自分が確認して、その後、皆さんにその内容をお送りするという事です。私であればそのような形でまとめていきたいと思うのですが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

部 会 長：それでは出来上がった報告書については、皆さんに市民会議前にお送りするという事になります。内容については、先ほど部長から説明のありました通りになると思いますが、そのようなことで了解いただきたいと思います。

【議題4】その他について

部 会 長：それでは、議題の4『その他について』、事務局より説明をお願いします。

井 田 係 長：次回は、第2回の市民会議・全体会となります。

<日程調整>

10月26日(水)夜7時からの開催で予定したいと思いますが、市民会議の他の10人の方とも別途調整してから決まりますので、正式な開催日時が決定しましたら、後日、改めて通知をお送りさせていただきます。

部 会 長：それでは、これで第4回稲城市海外姉妹都市検討市民会議作業部会を終了いたします。